

小 学 校

令和 3 年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	目指す児童像	2
III	研究仮説	2
IV	研究の視点	2
V	研究構想図	3
VI	研究の手だて	4
	〈手だて1：思いや願いを出し合う〉	
	〈手だて2：よさや可能性を互いに伝え合う〉	
	〈手だて3：よさや可能性を価値付ける〉	
VII	検証授業及び考察	7
	〈検証授業1：低学年〉	7
	〈検証授業2：中学年〉	8
	〈検証授業3：高学年〉	9
VIII	調査研究	10
IX	研究のまとめ	13

研究主題

学級活動を通して自他のよさや可能性を生かす児童の育成

～ 一連の学習過程における一人1台の学習者用端末の効果的活用 ～

I 研究主題設定の理由

1 特別活動で育成する資質・能力

小学校学習指導要領（平成29年3月）前文では、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成すること」が示されている。

また、小学校学習指導要領解説特別活動編（平成29年7月）では、「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して」資質・能力の育成を目指すことが示されている。

2 社会的背景

令和3年1月に文部科学省が示した「令和の日本型学校教育」¹では、一人1台の学習者用端末（以下、「学習者用端末」と表記。）を活用した「個別最適な学び」と探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら前述した資質・能力を育成する「協働的な学び」を一体的に充実させることが求められている。「協働的な学び」については、「集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよさや可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出す」ことが重要である。

3 学校教育の現状

我が国の若者の意識²として、「自分には長所があると感じている」という若者が、他国と比べて低い数値となっており、自分のよさや可能性を認識できていない現状がある。そのため、自他のよさや可能性を認識し、それを生かした「協働的な学び」を実現させることが大切であり、互いのよさや可能性を發揮することを通して資質・能力の育成を目指す特別活動の担う役割が大きいと考えた。また、令和2年度の全国的な学校の臨時休業措置後には、特別活動が全人格的な発達・成長につながる側面があるとして注目された。

4 研究主題について

学級活動の一連の学習過程において、学習者用端末を効果的に活用して、空間的・時間的制約を緩和した方法で思いや願いを共有したり認め合ったりする活動を設定することで、更に児童は自他のよさや可能性に気付き、認め、生かそうとすることができると考えた。

以上のことから、本研究では研究主題を「学級活動を通して自他のよさや可能性を生かす児童の育成～一連の学習過程における一人1台の学習者用端末の効果的活用～」と設定した。

¹ 「「令和の日本型学校教育」構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」中央教育審議会（令和3年1月26日）

² 「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」（内閣府 平成30年度）によると「自分には長所があると感じている」という質問項目においては、調査対象7か国の中で一番低い数値であった。

II 目指す児童像

- 自他を価値ある存在として気付くことができる児童
- 自他のよさや可能性を認め、生かすことができる児童

III 研究仮説

〈研究仮説〉

学級活動の一連の学習過程において、学習者用端末を効果的に活用して、空間的・時間的制約を緩和した方法で思いや願いを共有したり認め合ったりする活動を設定し、その活動を繰り返していくことで、更に児童は自他を価値ある存在として気付くとともに、自他のよさや可能性に気付き、認め、生かそうとすることができるであろう。

IV 研究の視点

〈研究の視点〉

視点1 思いや願いを共有する

教師が学習者用端末の活用場を設定し、児童に思いや願いを出し合わせることで、児童は一人一人の思いや願いを共有することができるようになると考えた。

視点2 よさや可能性を認め合い、自己や集団の活動に生かす

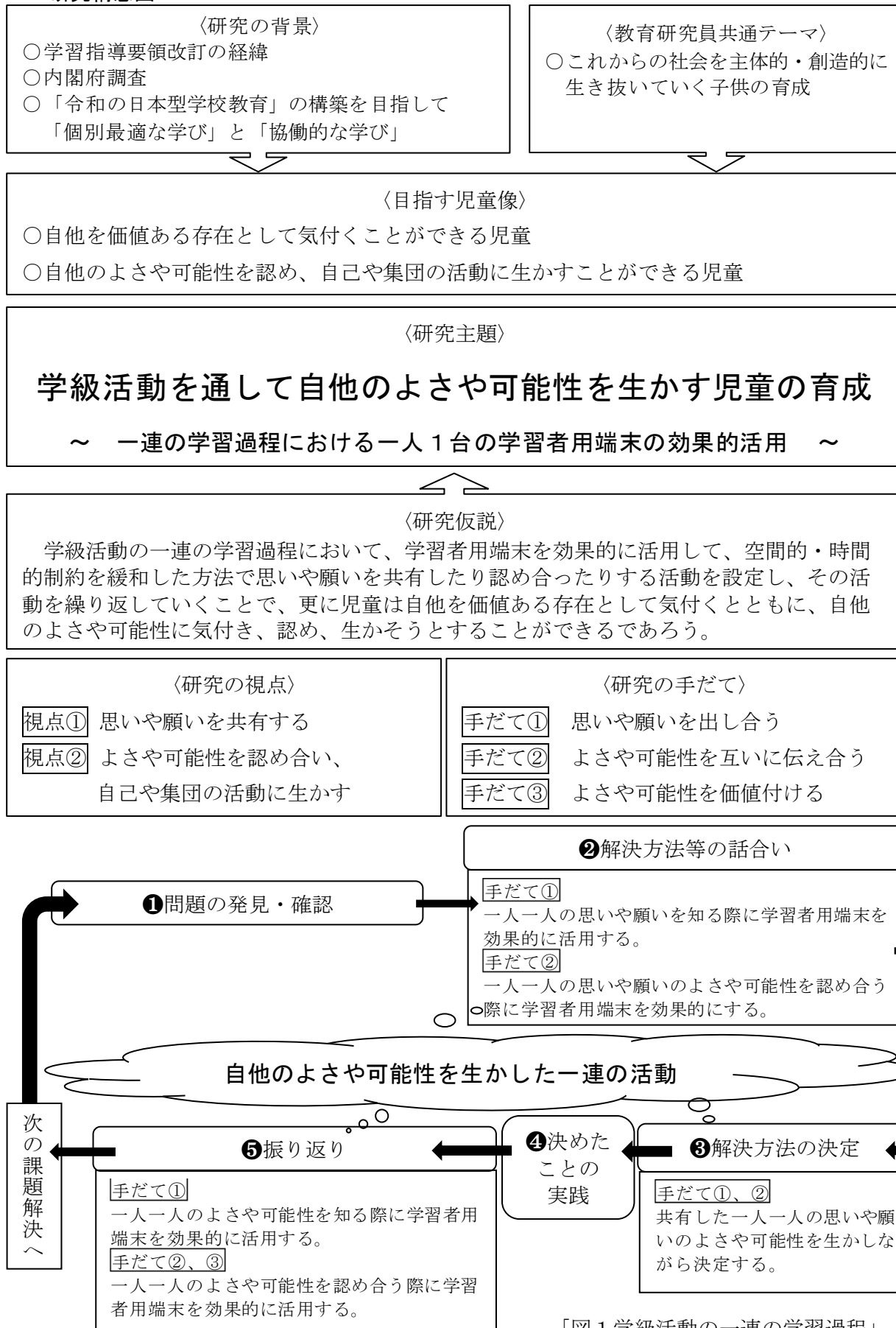
よさや可能性を生かす視点を教師が明確にし、児童に互いに伝え合う活動を繰り返し行わせることで、児童は自信をもつことができ、自他のよさや可能性を認め合い、自己や集団の活動に生かすことができるようになると考えた。

本研究では、小学校学習指導要領解説特別活動編（平成29年7月）で示されている育成を目指す資質・能力を基に、よさや可能性を(1)個人の性格や生来もっている性質上のもの、(2)技術的な能力等、(3)集団に対して望ましく働きかけるものの3点に分類した。さらに、児童がよさや可能性を生かす対象を①自己に対して、②他者に対して、③集団に対しての3点に分類し、研究を進めた。

「表1 本研究でのよさや可能性の分類」

よさや可能性	よさや可能性を生かす対象
(1)個人の性格や生来もっている性質上のもの ・性格や人間性等の特長、個性、自分らしさ	①自己に対して
(2)技術的な能力等 ・得意なことや秀でた技能	②他者に対して
(3)集団に対して望ましく働きかけるもの ・それを発揮することで、集団がよりよくなるもの ・周りの役に立っていること	③集団に対して

V 研究構想図



VI 研究の手だて

1 思いや願いを出し合う

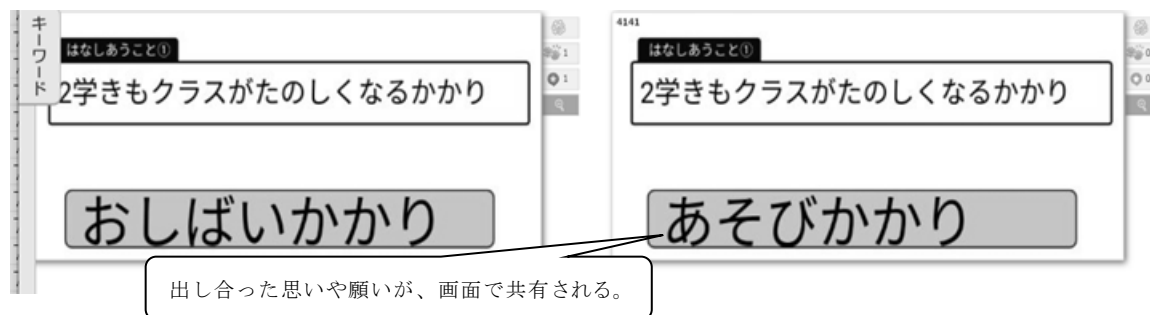
(1) 目的とその背景

学級活動(1)³の中で、大勢の前で発言できる児童がいる反面、発言をためらってしまう児童や考えを整理することに時間がかかり、話合いの展開についていけない児童もいた。従来通りの方法だけでは思うように自分の「思いや願い」を出し合えなかった児童もいた。そこで、学習者用端末を使用することで、事前に意見を出し合ったり、見合ったりできるようにし、自分のペースで考えをまとめ、誰もが安心して学級会に臨み、思いや願いを出し合いやすいようする。

(2) 方法、指導上の留意点

ア 電子ホワイトボードや協働学習支援ソフトを活用して思いや願いを出し合う

自分の思いや願いを発言することが苦手な児童も、学習者用端末を活用することで自分のペースで思いや願いを書き込み、伝える準備ができる。その考えを共有することで、事前に友達の考えを知ることができ、安心して話合いに臨むことができる。また、学習者用端末を使うことによって、挙手をして発言する以外にも、自分の思いを共有することができ、意思表示の手段を広げることができると考えた。



「図2 協働学習支援ソフトを活用した意見の共有」(低学年の実践例)

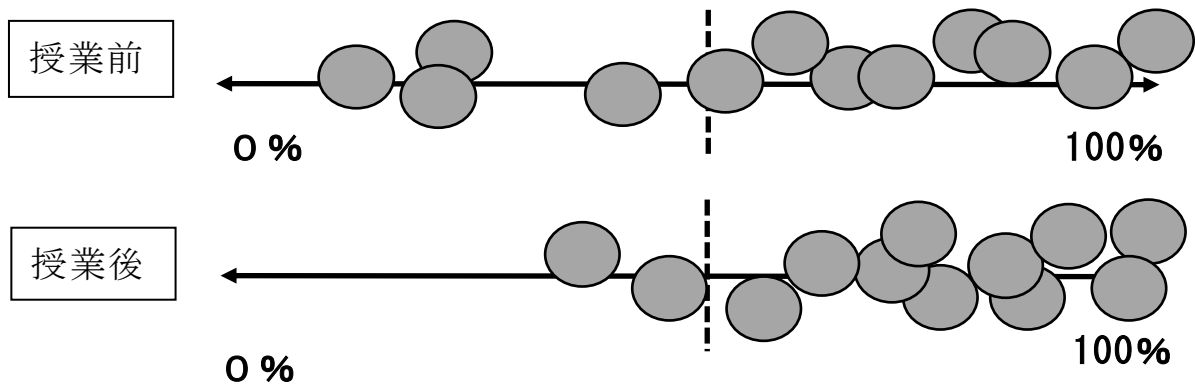
イ Web アンケートやポジショニング機能を用いて意思表示をする

学級活動(2)⁴(3)⁵「題材を提示する」場面では、Web アンケートやポジショニング機能を用いて、自分の現時点での思いや願いを意思表示する。Web アンケートでは、回答をその場ですぐに円グラフ等で共有することができる。ポジショニング機能では、授業後にポジションを更新することで、思考の変化の軌跡を振り返ることができる。(図3は、学級目標の達成に向けた意識の変容を表し、高い数値ほど、同目標に対して努力できていると児童が自己評価していることを表している。)このように、これらの機能を使用することで、児童は自分や友達の思いや願いの傾向を知ることができる。さらに、友達の意見を受けて自分の考えが深まったり、変容したりしたことを客観的に捉えることができ、友達と伝え合うことによさに気付くことがこれまでより容易にできると考えた。

³ 学級活動(1)学級や学校における生活づくりへの参画

⁴ 学級活動(2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

⁵ 学級活動(3)一人一人のキャリア形成と自己実現



「図3 ポジショニング機能を用いた自己評価の変容」(高学年の実践例)

2 よさや可能性を互いに伝え合う

(1) 目的とその背景

これまでは、よさや可能性を伝え合う際に、学級会ノートを見合ったり、発表する時間を設けたりする方法が多く用いられていた。しかし、時間の確保や発表する児童に限られてしまうといった課題があり、全ての児童が友達からよさや可能性を認めもらうことができないことがあった。そこで、学習者用端末を使用することで空間的・時間的制約を緩和することによって、誰もが自分のよさや可能性を友達から認められるようにする。

(2) 方法、指導上の留意点

ア コメント機能を用いて、互いのよさや可能性を認め合う

児童が表現した思いや願いに対し、協働学習支援ソフトを活用し、学習者用端末上に友達のよさや可能性を書き込んだり、拍手ボタンで肯定したりする。また、児童が書いた考え等については、そのデータをサーバ上で管理するため、自宅からでもデータに接続することで、友達が書いた内容を読むことができ、空間的な制約を緩和できる。さらに、友達から拍手やコメントでよさや可能性を伝えられたり、肯定されたりした児童は友達から認められたことで、自分の思いや願いのよさや可能性に改めて気付くことができる。あらかじめコメントを送り合う相手を決めておくことで、どの児童も必ず自分のよさや可能性を友達から伝えてもらえるよう留意する。

②自分のかんがえ
話しあうこと①

名前

3
6

秋が楽しめる おみせ

おちばの色あてやさん

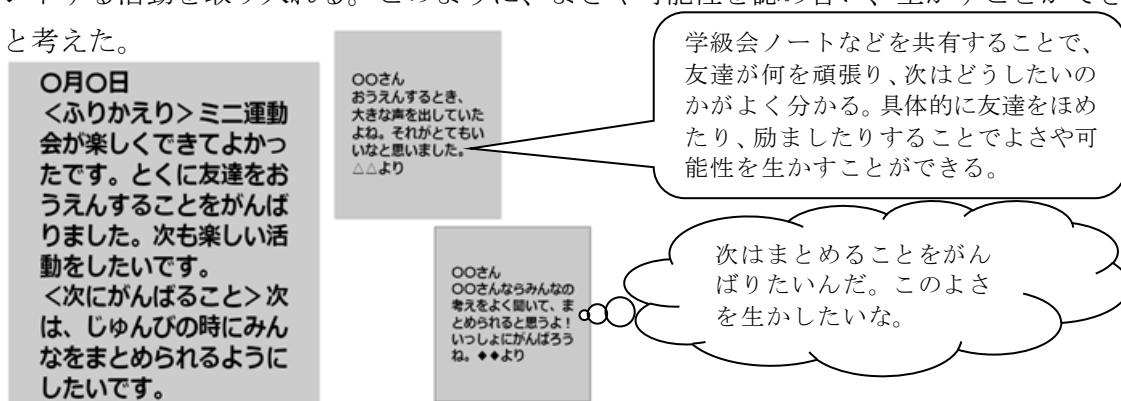
りゅう
秋の葉っぱは、色もきれいだし形もおもしろいからそれを当てたら もっとおもしろそうだからです。

友達がくれたいいねの数やコメントの数が表示される。コメントは自分で内容の確認ができる。

「図4 協働学習支援ソフトを活用した意見の認め合い」(低学年の実践例)

イ 振り返りの場面で、互いのよさや可能性を認め合い、生かす

学級会ノートで行っていた一連の学習過程の振り返りを、協働学習支援ソフトで入力したり、手書きした学級会ノートの写真を電子ホワイトボード上に貼り付けたりすることで蓄積の方法を広げる。さらに、それを共有することで友達よさや可能性に気づき、コメントする活動を取り入れる。このように、よさや可能性を認め合い、生かすことができると考えた。



「図5 協働学習支援ソフトを活用した意見の共有」(中学年の実践例)

3 よさや可能性を価値付ける

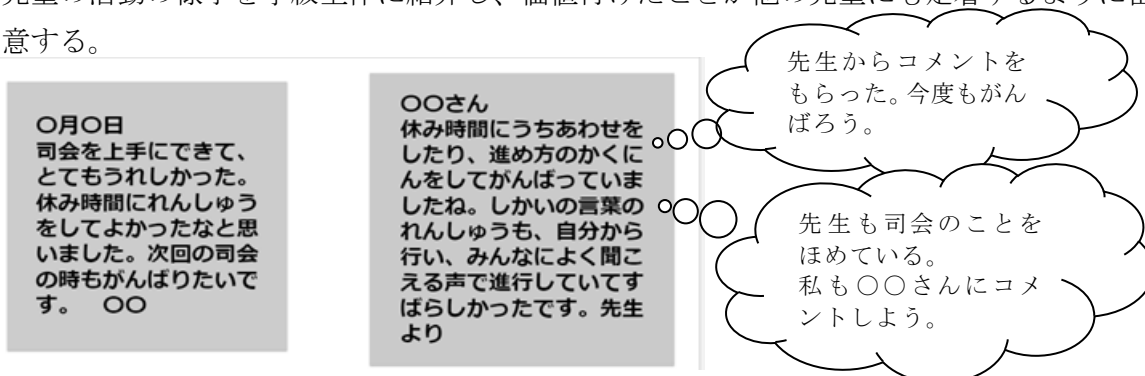
(1) 目的とその背景

教師が児童のよさや可能性を価値付ける際には、学級会や集会などの終末の助言等で学級全体に伝えるという方法をとってきた。しかし、時間が限られ、取り上げられる児童が少ないことや、準備や練習の時間など、学級会や集会の時間以外での児童のよさや可能性を価値付けにくいという課題があった。そこで、P2の「表1」で整理したことを基に、「よさや可能性」を明確にし、教師も教師用端末を活用することで学級活動の様々な場面で価値付けられるようにする。

(2) 方法、指導上の留意点

ア 電子ホワイトボードやコメント機能を通して即時に価値付ける

教師は、一連の学習過程の中で見られた児童の言動や、電子ホワイトボードやコメント機能を使ったやりとりの中からよさや可能性について、励ましや称賛のコメントを送ることで価値付ける。児童の活動後に即時に価値付けることで、児童は自分のよさや可能性を理解しやすく、更によさや可能性を生かしたいという意欲を高められると考えた。教師が児童の活動の様子を学級全体に紹介し、価値付けたことが他の児童にも定着するように留意する。



「図6 協働学習支援ソフトを活用した教師の価値付け」(中学年の実践例)

Ⅶ 検証授業及び考察

【検証授業1：低学年 学級活動(1)】第2学年（実践：令和3年9月6日）

議題	2学期もクラスがもっと楽しくなる係を決めよう
提案理由	1学期の係が楽しくて大成功だった。2学期もみんなが楽しくて面白いと思う係をつくって、クラスみんなが笑顔になる係の時間にしたいから。
本時のねらい	1学期の係活動を振り返り、みんなが笑顔になる係を考えることができるようにする。
話し合うこと	係は何にするか

児童の発言や記述が、①自己に関すること②他者に関すること③集団に関することのどれに当てはまるのかを分類。学習者用端末を活用したことで見られたよさや可能性に☆

	●児童の活動や様子 ☆学習者用端末の活用	◆自他のよさや可能性を生かす児童の姿 「児童の発言や記述」	① 自	② 他	③ 集
事前の活動	<ul style="list-style-type: none"> ●議題・提案理由を決め、学級全体で共有した。 ●個人のめあてと自分の考えを学級会ノートに記入した。 ☆協働学習支援ソフトを使い、意見を共有し、意見のよさや可能性を認め合った。 ☆司会グループが協働学習支援ソフトに出た意見を短冊にまとめた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆めあてを決めることで、話し合い活動への意欲をもっていた。「私は学級会でみんなの意見を聞くことをがんばりたい。」「私は手をあげて自分の意見を発言したい。」 ◆グループの友達のめあてや意見に対しコメントをしたり、拍手機能を使ったりし、互いのよさや可能性に目を向けていた。「そのめあてがたいせつだね。」「プレゼント係ってみんなが楽しめそう。」「クラスみんなのことを思っている意見だね。」 	☆		
話し合い活動	<ul style="list-style-type: none"> ●話し合うこと「係は何にするか」について意見を出し合った。 ●意見をまとめるときに、出た意見のよさや可能性を生かして合意形成を図った。 ☆友達や先生の話聞き、協働学習支援ソフトを使い、自己の振り返りを記入し、友達のよさを見つけてコメントを送り合った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆事前に意見を共有したことで、司会グループがまだ出していない意見を発言するようにしていた。「〇〇係はまだ出ていないけど、言わなくても大丈夫かな。」 ◆提案理由に沿った意見のよさや可能性を認め合って比べようとしていた。「クイズ係に賛成です。クイズに出す人もクイズに答える人もどちらも楽しくて、みんなが笑顔になるからです。」 ◆出た意見のよさをや可能性を生かせるような合体意見を出していた。「プレゼント係とくじびき係を合体したらいいと思う。くじびきを引いて当たった人に、手作りのプレゼントを渡せば2つの係のよいところが出せるから。」 ◆友達のめあてを意識して、頑張りを認めようとしていた。「めあてのとおり、いっぱい意見が言えてよかったよ。」「めあて、達成できていたよ。すごい。」 ◆友達からコメントや拍手がすぐに送られてくるため、話し合い活動中の自分のよさや可能性に気付いていた。「コメントが届いた。〇個こもあってうれしい。」 			
事後の活動	<ul style="list-style-type: none"> ●活動計画を立て、クラスが楽しくなる係活動を進めた。 ☆協働学習支援ソフトを使い、それぞれの係のよさを認め合った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆係のよさや可能性に気づき、感謝の気持ちを伝えていた。「パソコンをつかって楽しいあそびを考えてくれてありがとう。」「アンケートをとってゲームを決めていてすごいね。」 	☆	☆	☆

考察	<p>【視点①】思いや願いを共有する 事前に学習者用端末を用いて意見を共有すること（<u>手だて①</u>）で、話し合いで出てこない意見の発表を促すことができた。また、めあての共有などを協働学習支援ソフトで行うことで、時間に縛られることなく互いにコメントをしたり拍手をしたりすること（<u>手だて②</u>）ができた。</p> <p>【視点②】よさや可能性を認め合い、自己や集団の活動に生かす 意見やめあてを端末上で共有することで、話し合い中によさや可能性に気付く児童が増えた。よさや可能性につながる視点を明示し、教師が具体的な場面を挙げて価値付けること（<u>手だて③</u>）で、よさや可能性を生かそうとする意欲を高めることができた。</p> <p><課題> 低学年では、学習者用端末を操作することに時間がかかり、時間内に活動が終わることが難しかった。</p> <p><改善策> 低学年では、学級会ノートに入力する項目を限定することで、時間を確保していく。また、直接話し合うことでそれぞれの意見への理解を深める効果も大切にしつつ、互いのよさや可能性に気付かせ合う場として学習者用端末を効果的に活用する。</p>
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【検証授業2：中学年 学級活動(1)】第4学年（実践：令和3年10月18日）

議 題	4年2組オリパラ集会の計画を立てよう
提 案 理 由	誰とでも仲良くなってきたが、臨時休業中はオンラインでしかかかわることができなかったのでオリパラ集会でみんなとかかわりたいから。
本時のねらい	みんなとかかわることができる「オリパラ集会」をするために、競技の内容を考えることができるようにする。
話し合うこと	競技は何にするか

児童の発言や記述が、①自己に関すること②他者に関すること③集団に関することのどれに当てはまるのかを分類。学習者用端末を活用したことで見られたよさや可能性に☆

	●児童の活動や様子 ☆学習者用端末の活用	◆自他のよさや可能性を生かす児童の姿 「児童の発言や記述」	① 自	② 他	③ 集
事前の活動	●事前に意見と理由を書いた。 ☆電子ホワイトボードに自分の意見とその理由を書いた。 ☆電子ホワイトボードで友達の意見にコメントをした。	◆友達の意見のよさを認めるコメントを多くの友達に送っていた。 「確かに誰とでもかかわれていいね。」 「理由が分かりやすくてよかったよ。」 ◆初めて理由まで書けた友達をみんなで認めていた。 「理由が書けていてすごいね。」「○○さんよかったね。」		☆ ☆	
話し合い活動	●話し合うこと「競技は何にするか」について意見を出し合い、出た意見のよさや可能性を生かして合意形成を図った。 ●振り返りを行った。 ☆自分の学級会ノートカメラで写真を撮り、それを電子ホワイトボードに貼り付けた。 ☆友達のめあてと振り返りを読み、コメントを送り合った。	◆理由がうまく言えない友達に対して、電子ホワイトボードに書いてあった内容を覚えていて、話し合いのときにそれを伝えていた。 「○○さんの理由は、『3年生の時にやって楽しかったから』って書いてあったよ。」 ◆励まし合うコメントが多く、友達のよさや可能性に気付いていた。 ◆励ましのコメントをもらい、自分のよさや可能性に気付いていた。 『「納得させるような意見は難しかった』と書いてあるけど、○○さんの理由は分かりやすかったよ。」 「意見をまとめるの難しいけど、司会を頑張っていたね。」 「今回手を挙げられなくても、次の学級会で頑張れば大丈夫。」		☆ ☆ ☆	
事後の活動	●4年2組オリパラ集会後に、振り返りを行った。 ☆自分の学級会ノートカメラで写真を撮り、それを電子ホワイトボードに貼り付けた。 ☆友達のめあてと振り返りを読み、コメントを送り合った。	◆一連の学習過程の中での友達のよさや可能性を認める発言が多かった。振り返りを共有できたことで、多くの友達のよさや可能性に気づき、認め合っていた。 「ゴールボールで点を取られたときでも○○さんが大丈夫だよって言ってくれた。」 「ゆずってくれた○○さんが楽しそうよかった。」 「ルールを考えるとときに、○○さんが一緒に紙にまとめてくれたから今日のはうまくいった。」		☆ ☆ ☆	☆

考察	<p>【視点①】思いや願いを共有する 事前に、電子ホワイトボードに思いや願いを出し合い、共有すること（手だて①）で、意見をもつことが難しい児童でも友達の意見を参考にして考えることができ、全員が意見を出し合うことができた。</p> <p>【視点②】よさや可能性を認め合い、自己や集団の活動に生かす 事前や事後に電子ホワイトボード上で意見のよさや可能性を認め合う活動（手だて②）を行うことで、どの意見に対しても優しく受け入れるコメントが送られていた。それによって自分の意見のよさや可能性に気付くことができていた。学級会の振り返りノートの画像を電子ホワイトボード上で共有し、コメントを送り合う（手だて②）ことで、友達のよさや可能性をすぐに伝え、生かすことができていた。</p> <p>自己評価が低かった児童に対し、友達が励ましの言葉を送っていた。そのような電子ホワイトボード上のやり取りのよさを教師が見取り価値付けた（手だて③）。それにより、電子ホワイトボード上でも互いのよさや可能性を認め伝え合っていきたいという意欲につながった。</p> <p>〈課題〉 話し合いの中で電子ホワイトボード上でやりとりをしたことを生かして、意見を比べ合い、合意形成につなげるのが難しかった。</p> <p>〈改善策〉 電子ホワイトボード上で出し合った意見を生かすために、学習者用端末に入力したことを一人一人が手元に置いて確認しながら話し合えるようにする。</p>
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【検証授業3：高学年 学級活動(3)】第5学年(実践：令和3年11月15日)

題材	5年2組パワーアップ大作戦
内容	ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成
本時のねらい	自他のよさや可能性に気付き認め合うことで、学級目標について更に高めていきたい自分なりのめあてを立てて実践できるようにする。

児童の発言や記述が、①自己に関すること②他者に関すること③集団に関することのどれに当てはまるのかを分類。学習者用端末を活用したことで見られたよさや可能性に☆

	●児童の活動や様子 ☆学習者用端末の活用	◆自他のよさや可能性を生かす児童の姿 「児童の発言や記述」	① 自	② 他	③ 集
事前の指導	●学級目標を振り返った。 ☆学級目標に対して、学級や個人がどのように取り組んでいるか Web アンケートやポジショニング機能に回答した。 ●友達の日々の頑張りを伝えるための動画を作成した。 ☆友達のよさや可能性について語る動画を作成した。	◆学級目標を振り返ることで、今までの自分たちの頑張りについて考えていた。 「私は努力することができた。」 「皆で協力することを意識して活動することができた。」 ◆動画を作成するを通して、友達のよさや可能性に目を向けていた。 「△△さんのおかげで運動会を成功させることができたな。」 「□□さんはいつも全力だな。学級の雰囲気がよくなったな。」	☆		☆
本時	●学級目標に対する事前のアンケート結果を知った。個人で学級目標を更に意識していくことが課題だと認識した。 ●学級で大切にしている3つのキーワードに対して自分がどう取り組んでいるか友達から意見を聞き、動画を視聴した。 ☆学習者用端末で事前に撮った友達からの声を聞き、自分のよさや可能性について考えを深めた。 ●キーワードに対するアドバイス動画から1つ選んで視聴した。 ☆更に高めていきたい項目を決めて、アドバイス動画を視聴した。 ☆更に高めていく項目を意思決定し、協働学習支援ソフトで共有した。	◆アンケートから、自分たちの今までの頑張りを理解した。 「自分たちは9割以上の方が全力で毎日を頑張ってきたんだ。」 ◆友達の話や動画から、普段意識していなかった自分や友達のよさや可能性について気付き、認めていた。 「自分は〇〇というよさがあったんだ。」 「◇◇さんって、私のことをこんなに見てくれていたんだ。ありがとう。」 ◆動画から、「全力」「挑戦」「笑顔」を知り、気付かなかったよさや可能性について考えることができていた。 「自分は『笑顔』について頑張ってきたと思うけど、人をやる気にさせるということにもつながっていたのか。」 「そうか、僕たちはソーラン節を『全力』でやってきたから、アンケートでも多かったのか。」 「私は『笑顔』でみんなを楽しくしていることが分かった。だから『笑顔』について、もっと高めていきたい。そのために、みんなが『笑顔』になれるように毎日話しかけていく。」		☆ ☆	☆ ☆
事後の指導	●目標カードを活用し、振り返りを行った。 ☆自分の目標に対して、具体的に取り組んだことや成果を動画で発表した。 ☆ポジショニング機能に回答して、学級全体の思考の変容を確認した。	◆本時で伝え合った自分のよさや可能性を意識して取り組み、振り返ることで、考えを深めることができていた。 「〇〇さんから教えてもらった自分のよさ、『努力』を意識して、漢字の学習に取り組むことができた。」 「□□さんは授業で宣言していた通り、普段から学級目標を意識して友達に話しかけていたな。」	☆		☆

考察	<p>【視点①】思いや願いを共有する 事前の活動で、学級目標に対して学級・個人がどのように取り組んでいるのかアンケート及びコメントする際に、学習者用端末を活用することで、児童の思いや願いを共有することができた。(手だて①) 事後の活動で、個人が立てた目標に対してどのように取り組んできたかを共有する際に協働学習支援ソフトを活用することで、自分や友達の頑張りを知ることができた。(手だて②)</p> <p>【視点②】よさや可能性を認め合い、自己や集団の活動に生かす 本時で、友達とよさを伝え合うを通して、気付かなかったよさや可能性を知ることができた。教えてもらったよさや可能性を基に目標を立て、更に高めていこうとすることができた。(手だて②)</p> <p><課題> 友達からのコメントや称賛動画等をいつでも見られるようにし、意思決定したことの実践に生かしていくことは、学習者用端末のみの活用だけでは難しい。</p> <p><改善策> いつでも・どこでも自他のよさや可能性を振り返ることができるように、学習者用端末と意思決定カードの掲示などを併用していくようにする。</p>
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

VIII 調査研究

調査方法・・・Web アンケートによる

調査対象・・・教育研究員の所属する都内公立小学校 15 校の第 1 学年～第 6 学年

9 月は部員の所属校児童 885 人、11 月は部員の担当学級児童 454 人

調査実施時間・・・9 月上旬、11 月下旬

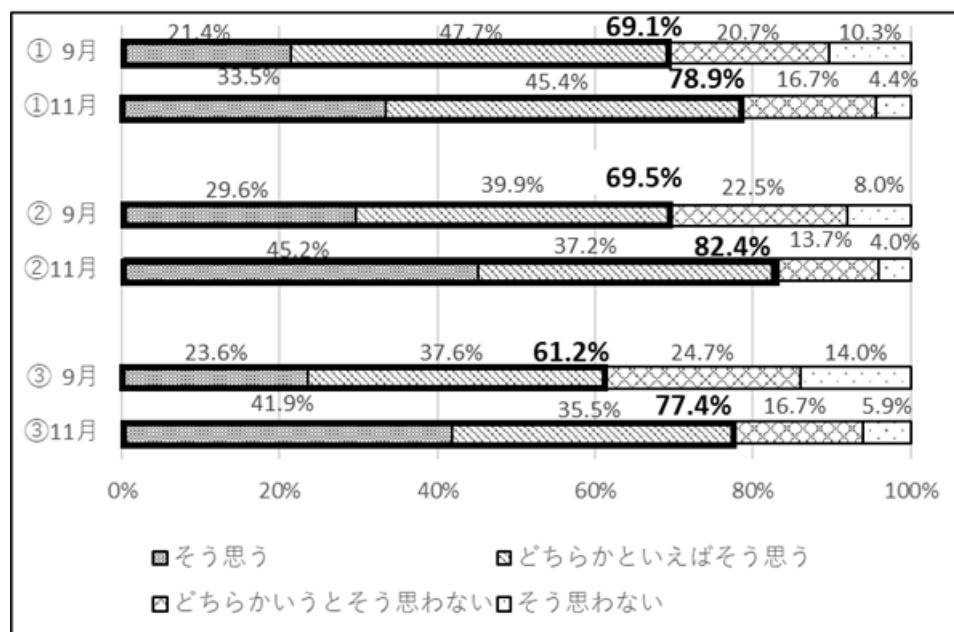
1 よさや可能性に気付くことに関する項目

質問①学級活動では、あなたは、自分のよいところに気付いていますか。

質問②学級活動では、あなたは、友達のよいところに気付き、それを伝えていますか。

質問③学級活動では、友達は、あなたのよいところに気付いたり、伝えてくれたりしていますか。

質問④学級活動で、自分のよさや友達のよさに気付けたときは、どんなときですか。(自由記述)



【結果】

図7のように、質問①では、「自分のよいところに気付いている」と肯定的な回答をした児童が全体で9.8ポイント増加した。特に中学年は12.4ポイントの増加が見られた。

質問②では、学年別の傾向を見

「図7よさや可能性に気付くことに関する項目」

たところ「友達のよさに気付き、それを伝えている」と肯定的な回答をした児童が低学年29.3ポイント、中学年は27.6ポイント、高学年は10.6ポイント増加した。

質問③では、「友達は自分のよさに気付いている、伝えている」と肯定的な回答した児童が16.2ポイント増加した。

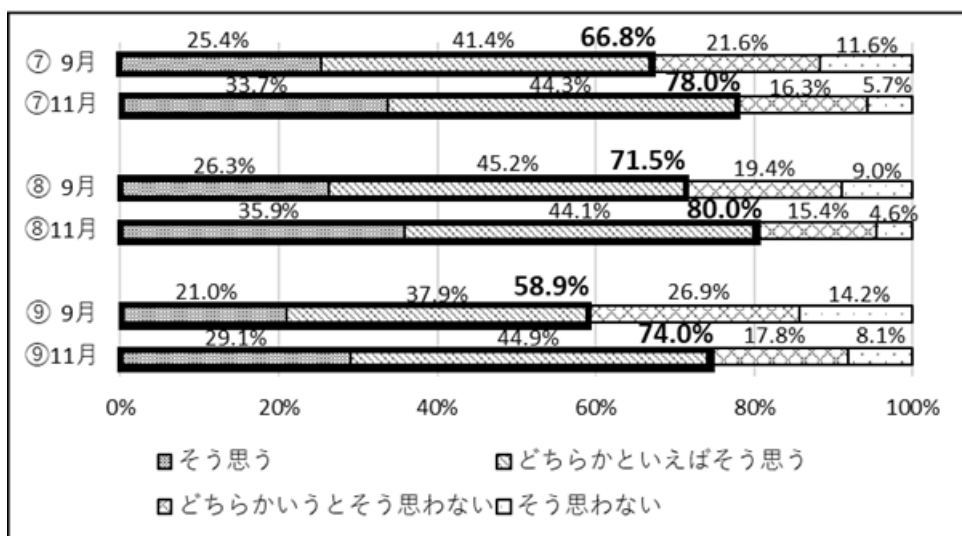
【考察】

低学年は、学習者用端末を活用することで、互いのよさや可能性を認め合える場面が増え、検証前よりも友達のよさや可能性に気付き、伝えやすくなっていることが分かった。質問④の自由記述によると、「コメントをもらったとき」、「みんなのよさをタブレットで読んだとき」、「タブレットで意見が言えたとき」といった記述があるように、一連の学習過程で学習者用端末を活用したことで、よさや可能性に気付き、伝えることが活発に行われるようになったと考えられる。

質問⑥の自由記述に対して、テキストマイニングを行い単語の出現頻度を調べた。(図9)「電子ホワイトボード」「協働学習支援ソフト」「タブレット」といった単語の入った記述は全体の約25.5%見られた。さらに、「電子ホワイトボードで友達の意見を参考にしながら自分の意見を書けた」、「協働学習支援ソフトで質問に答えるとき」、「協働学習支援ソフトで次の学級会の意見を出すとき」といった表現が多く見られるようになったことから、学習用端末の活用が思いや願いを伝え合うための有効な手段になっていたことが分かった。低学年・中学年の検証授業では、自分の意見を書くことが難しい児童も学習者用端末上で友達の考えを参考に意見を書くことができていた。

3 よさや可能性を生かすことに関する項目

質問⑦学級活動では、あなたは、自分のよいところを生かすことができますか。
 質問⑧学級活動では、あなたは、友達のよいところを生かすことができますか。
 質問⑨学級活動で、あなたは学級のみみんなのためになっていると感じたことはありますか。
 質問⑩学級活動で、学級のみみんなのためになっていると感じたのはどんなときですか。(自由記述)



「図10 よさや可能性を生かすことに関する項目」

【結果】

図10のように、質問⑦では、「自分のよいところを生かすことができる」と肯定的な回答をした児童が全体で、11.2ポイント増加した。

質問⑧「友達のよいところを生かすことができ

ている」も同様に、肯定的な回答をした児童が8.5ポイント増加した。

質問⑨でも、「学級のみみんなのためになっていると感じたことがある」と肯定的な回答をした児童は、15.1ポイント増加した。

【考察】

質問⑩の自由記述には「ナイスと言ってもらえたとき」、「自分のよいところを生かして、みんなを喜ばせることができたとき」、「係活動をしてみんなに喜んでもらえるとき」など、友達から認められたことについて書かれていた。

また、「学級会で、発言する人を助けてあげたとき」、「学級会で司会グループが困っているときに話し合いの進行を助けたとき」、「誰も発言しないときに、自分から発言できたとき」など、友達や学級のために活動できたことについても書かれていた。

これらのことから、学級活動の中で、友達に認められたり、友達や学級のために活動でき

たときに、児童は自分のよさや可能性を生かすことができていると感じることが分かった。

さらに、質問①～⑥の考察で述べたように学習者用端末を活用することで、児童が自他のよさに気付き、伝え合うことは活発になった。自他のよさを伝え合う活動を継続したことで集団の中で自分のよさや可能性を生かすことができるようになり、「学級のみみんなのためになっている」と感じている児童が増加したのだと考えられる。

4 調査研究のまとめ

本研究を通して、思いや願いを共有したり、自他のよさや可能性を認め伝え合ったりする際に学習者用端末を効果的に活用することで、児童は自信をもって自分の思いや願いを表現できるようになり、自他のよさや可能性を生かそうとする意識が高まったことが分かった。

特に、発達の段階によって次のような効果が見られた。低学年は、自他のよさを認め合える場面が増え、検証前よりも友達よさに気付き伝えやすくなっていることが分かった。中学年は、相互のやりとりが頻繁に行われたことで、自他のよさをより具体的に伝え合える実感を得られるようになった。高学年は、自分の思いや願いを出したり伝えたりするための手段や機会を増やすことにつながった。

Ⅹ 研究のまとめ

検証授業及び調査結果から、本研究の成果と課題について以下にまとめた。

【成果】

視点① 思いや願いを共有する	学級活動(1)
	学級活動(2)(3)
視点② よさや可能性を認め合い、自己や集団の活動に生かす	学級活動(1)
	学級活動(2)(3)

・学習者用端末で事前に全員の意見を共有したことで、自他の考えのよさや可能性に気付くことができた。手だて①

・全員の意見を共有したことで、一人一人の思いや願いを生かそうとすることができた。手だて①

・学習者用端末を活用し、自分や友達の思いや願いを蓄積したことで自他のよさや可能性を認め合うことができた。手だて①

・個人で意思決定したことを全員で共有しやすくなり、今まで気付かなかった友達の努力を分かろうとしたり、応援したりすることができた。手だて①

・学習者用端末を活用することで、友達に直接伝えるのが苦手な児童でも伝えることができた。手だて②

・集計機能を使うことで、集団の達成度が可視化され、児童が、自他のよさや可能性を実感することができた。手だて②

・学習者用端末の活用で、今までより多くの友達から自分のよさや可能性を認めてもらうことが可能になり、自分のよさや可能性に気付き自信をもつことができた。手だて②

・教員も端末を活用して児童のよさや可能性を即時に価値付けることができた。手だて③

【課題】

- ・ 思いや願いの中にあるよさや可能性に気付くためには、学習者用端末で事前に一人一人の意見に対して理解する時間を設定する必要がある。
- ・ 一連の学習過程によっては、学習者用端末に蓄積するだけでなく、提示物などと併用することで、互いに認め合ったよさや可能性をより生かせるようにしていく。

令和3年度 教育研究員名簿

小学校・特別活動

学 校 名	職 名	氏 名
江東区立第四砂町小学校	主任教諭	河野俊次
大田区立入新井第二小学校	主幹教諭	廣岡亮子
中野区立江古田小学校	教諭	河本美保
練馬区立北町小学校	主任教諭	森山隆博
練馬区立開進第一小学校	教諭	内田豊
江戸川区立第四葛西小学校	主幹教諭	◎中本健太郎
八王子市立大和田小学校	主任教諭	坪田真希子
八王子市立由井第一小学校	主任教諭	八木愛衣
小平市立小平第五小学校	主任教諭	高橋七緒
小平市立小平第七小学校	主任教諭	小島みなみ
国分寺市立第五小学校	主任教諭	川崎真琴
東久留米市立第五小学校	教諭	鈴木乃赴夫
多摩市立東落合小学校	主幹教諭	嶋田香織
あきる野市立前田小学校	主任教諭	石川萌香
西東京市立けやき小学校	主任教諭	若月雅人

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部授業力向上課
指導主事 関 聡司

令和3年度
教育研究員研究報告書
小学校・特別活動

令和4年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320—6849